2022.12.20
(拡大)調査研究部
審議資料1

主題授業デザインガイドライン

１．主題はどんな授業？

① スタンダードと到達目標について

主題科目には、以下の共通教育スタンダード、全学共通教育の到達基準が設定されています。これらが、主題科目の授業のあり方を、もっとも基礎的なところで規定します。

共通教育スタンダード：「21 世紀社会の諸課題に対する探究能力」 到達基準：「21 世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。」

②「21 世紀社会の諸課題」とは？

現代社会に生きるわれわれにとって課題となるものであれば、どのようなものでも主題のテーマになりえます。例えば、これまで主題科目では、「経済大国と経済成長のコスト」、「集団的自衛権と憲法」、「農業バイオテクノロジーと環境問題」、「風土・地域環境に立脚した水利用」といったテーマが取り上げられています。

③「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」とは？

上記の到達基準に示されているように、育成すべきは、21 世紀社会の課題と解決策を探求する能力ですから、現状への適応能力ではなく、現状を改善するための能力に焦点を絞ることが望ましいでしょう。

④ 主題科目の役割

主題科目は、単に、課題発見・課題解決のためのスキル教育を行なう場ではありません。全学共通教育の役割に鑑みて、主題は学部教育のための準備の場であるとともに、何が現代のわれわれにとっての課題であるのかを知る場、特定の専門分野からのアプローチを相対化できる視点を得る場であることが理想です。学生には、主題で複数の授業を履修することにより、現代社会の諸課題について知るとともに、様々な学問分野において、現代社会の諸課題に対してどのようなアプローチが採られるのか、具体的に学ぶことが期待されています。

２．授業のテーマ設定をしていただく際の注意

授業で取り扱うテーマを学生自身の問題として考えさせるためには一定の授業時間が必要ですが、８回の授業で取り扱える情報量には限りがあります。それゆえ、複数のテーマを次々に扱うよりは、テーマを絞り、全体を有機的にデザインし、当該テーマが学生自身にかかわることを理解してもらうことが望ましいでしょう。授業デザインに当たっては、以下の３点に注意してください。

・キーワードを設定し、どういった課題を扱うのか、明確にする（シラバスの「概要」で１つ以上記載する）
・キーワードを軸にして、全体の連関が見えるように授業をデザインする
・取り上げる課題が、学生自身に関わるものであることが分かるようにする

３．主題科目で推奨される授業形態

課題発見・解決型授業の理想形は、卒業研究ですが、いうまでもなく、このレベルを初年次生に要求することは困難です。だとすれば、課題の成り立ち、現状、構造、事例、解決策、課題発見、課題解決の方法についてしっかり教える、あるいは、学生主導の活動を組み込む場合は、初年次生のレベルでも取り組める課題を設定する、という授業形態が、実現可能なものとして考えられます。前者の場合、講義のために一定の時間が必要ですが、部分的に課題発見や課題解決の作業を組み込めば、学生の理解度や、課題に対する探究能力を高めることにつながります。ここでのワークは、学んだ理論を応用するケーススタディや、大きな課題の一部をなす問題への取組などが考えられます。後者は学生に課題発見・課題解決のワーク（PBL,TBLなど）を課すという形で実施されえます。

考えられる授業形態、対応する到達目標、については、別紙の「主題科目授業デザインフローチャート」、および「主題タイプ別授業事例」…（今年度用に作成したものを書き込む）を参考にしてください。授業形態がⅠ、Ⅱ、Ⅲのいずれかに該当する場合は、DRI教育の拡充および成果可視化のためのD科目となります。

４．主題科目の授業タイプ

大学教育基盤センターでは、主題科目の授業を以下の４タイプに区別し、I～IIIでの実施を推奨しています。

I　課題発見・解決型…授業全体、あるいは一部に課題を発見し、解決策を提示するワークがある
II　課題解決型…授業の全体、あるいは一部に課題解決策を提示するワークがある
III　課題発見型…授業の全体、あるいは一部に課題を発見するワークがある
IV　課題理解型…すべて講義で進められる